

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200908		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホームたんぼぼ		
所在地	長崎県佐世保市石坂町177-29		
自己評価作成日	令和3年5月19日	評価結果市町村受理日	令和3年7月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットで、アットホームなグループホームです。職員の離職率も低く利用者とも長くお付き合いさせて頂いています。最近では、コロナの影響で外へ出ることが難しいですが、3密を避けドライブスルー方式の初詣や車の中からの花見、デリバリーの利用でいつもと違う食事を楽しんでいます。以前に比べ、午前と午後にレクリエーションの時間を持つように職員はがんばっています。そんなに広くないホームの中で、身体レベルを落とすことのないように(外出できる時には自分の足で歩くため)利用者様を励ましながらか歩行訓練や運動も取り組んでいます。今、出来ることを支援するよう職員間で考えながら実践しています。今までと違う状況でも法人の他の事業所とも情報共有できる環境があり、チームプレーのできる職員関係があるので、ご利用者の楽しく、安心できる生活を提供できていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは閑静な住宅街に位置しており、高台にあるベランダからは自然豊かな緑と青空が広がっている。コロナ禍であっても、入居者が楽しめるようにレクリエーション・行事・外出・食事など職員が工夫し支援している。職員は日頃の会話の中から入居者の思いをくみ取り、入居者が選択できるように提案をすることで自己決定できる機会を増やし入居者の楽しみに繋げている。身体拘束や接遇面に関しては、日々の入居者対応の中での事例を取り上げ、会議の中で話し合い、日々の業務を振り返ることで改善に繋げている。管理者や主任は職員の声に耳を傾け、楽しく働きやすい職場づくりに努めている。職員同士のチームワークも良好で、一つの事に皆で取り組む姿勢が窺える。ホームは「笑顔いっぱい、幸せいっぱい、ありがとう」の理念を実践に繋げており、入居者・職員共に笑顔の絶えないホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年から、コロナの影響で地域との交流が持てないが、理念は毎日声に出し職員と利用者様で共有し笑顔の見られる日々を送るよう実践している。	職員は「笑顔いっぱい、幸せいっぱい、ありがとう」の理念を毎日唱和することで意識を高め、日々の振り返りの機会としている。理念に沿ったホームの目標を毎月決定し取り組むことで理念の実践に繋げている。職員はレクリエーションや外出、行事、食事など入居者の笑顔に繋がることを自主的に企画し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 令和3年5月19日	日常的には難しかったが、町内会に入っているので佐世保の広報誌が配られた時には、ご利用者のも見ていただくようにしている。	ホームは自治会に加入しており、自治会班長が毎月広報誌を持ってホームを訪れている。職員と近隣住民は普段から顔を合わせ挨拶を交わしており、職員は地域の草刈りにも参加し、地域と良好な関係性を築いている。道路に面したホームの扉には「AED」の表示があり、必要時には貸し出せることを地域へ知らせている。また、ホームはこども110番に登録しており地域の方の安心に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の話は、先送りになって実現がむずかしくなった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年から、書面にての運営推進会議を行っている。アクシデントの続いている方に、市の方から長寿社会課の理学療法士の個別指導があることの情報提供があり知らなかったことなので今後、活かしたい。	運営推進会議には行政・民生委員・地元公民館館長・他事業所・家族の参加があり、利用者状況・身体拘束研修報告・アクシデント報告・行事報告を行い意見を頂き運営やサービス向上に活かしている。事前にホームの状況を伝え意見をもらい、意見への回答を含めた運営推進会議報告書を作成し構成委員へ郵送することでホームへの理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 令和3年6月19日	市の方へ出向いた時に話す。法人でホームページを出している事の情報なども伝えるようにしている。	市の担当職員へ、法人のホームページにホームの空き状況などの掲載があることを伝え、現状報告を行っている。また、運営推進会議や介護保険更新時には、ホームの実情や取り組みを伝え、協力関係を築いている。ホームで発生したアクシデントについて、行政より情報提供や提案があるなど、入居者への支援方法の検討へと繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日ごろから話をおこなっている。身体拘束が必要な対象者はいないが、スピーチロックが問題に上がるので小さなことから取り組むようにしている。	以前は法人内の身体拘束適正化委員会にホーム職員が参加していたが、現在はホーム内に身体拘束適正化委員会を設置し取り組んでいる。毎月のホーム会議で事例を出し改善に向けた話し合いをすることで、身体拘束をしないケアに努めている。令和3年1月に身体拘束・虐待防止の研修、令和3年4月に虐待防止に向けた自己チェックシートを行い身体拘束についての理解を深めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、身体拘束と一緒に話し合いの議題にしている。他の施設からの情報なども自分のホームで話をするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には、自立支援事業を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間をとりその時以外でもわからない事不安な事がある場合対応している。改定が行われた時は、説明を行い同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見は、職員で聞ける機会が多くある。ご家族には、電話や面会時に何かないですかと尋ねるようにしている。	ホームは家族との面談の機会を増やすことで、家族が意見や要望を言いやすいよう努め、運営に反映させている。家族よりサービス内容の検討や見直しの希望があった際は、ホームより多様なサービスの提案をして家族の希望に沿えるよう支援した。意見を上手に表せない入居者には選択できるよう提案し、自己決定に繋げ支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の会議の他で、人数を絞った会議を行っていただき以前よりも話しやすい環境がある。	毎月のホーム会議にて職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。管理者は日頃より職員の声に耳を傾け相談しやすい環境づくりに努めている。職員の提案にて行事や外出支援、デリバリーの食事などを取り入れたことで入居者の楽しみとなっている。また、職員の提案にて手指の運動を取り入れたことで手指能力の向上に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価が年2回ある。特定処遇改善もあり、年間の有給消化の義務付けも出来たので以前よりも良い環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部より、研修のDVDを配布していただいたりホーム内での勉強会を行っている。経験の少ない職員さんには仕事をしながら介護を教えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設などの交流が難しくなってきたが、法人で他の事業所との交流が密になり刺激になる事も多くサービスにつながられている。よその運営推進会議メンバーなので、会議には現在行けないが情報を頂けるのでホームで取り入れられることは取り込んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、時間を作りできるだけ話を聞くようつとめている。必要があれば、足を運ぶ回数を増やすようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りを、しっかり行い、忙しい家族にはいつでも連絡していただけるよう電話でのやり取りも行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所の必要な段階なのか？在宅での生活をまだ支援で支えられるのか？その方に今、あうサービスの選択肢を提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援のためにも出来る家事の参加をお願いしており、助けられていることのお礼を言うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関わりの多いご家族もいらっしゃるが、そうでないご家族にはお願いをしてご利用者との関わりを持っていただくよう働きかけている。(病院受診など)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやり取りや、手紙を出すなどの支援を行っている。	コロナ禍に伴い現在も面会制限をしているが、窓越しや距離をとっての面会はできるよう配慮し、家族との関係継続の支援に努めている。また、電話や手紙での支援も行い入居者の喜びとなっている。以前、グランドゴルフ経験者の入居者には地域の方と一緒にプレイできる機会をつくり馴染みの関係が途切れないよう支援していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考えた席の配置や関係性を見て、一緒の家事を行っていただく事、リーダー役をお願いしてグループで活動をしていただくなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があれば相談にのるようになる。ご利用中に話しやすい関係性をつくっておくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や意向は聞き取れるようにしている。会話困難な方がいらっしゃるが普段の生活の中から本人本位で検討するように職員間で情報を共有している。	職員は日頃の会話の中から入居者の思いをくみ取り、希望に沿った支援ができるよう努めている。入居者がピザの広告を見て、食べたいと希望を言われた際は食卓にあげるなど、すぐに対応することで喜びに繋げている。入居時に生活のこだわりや他者との関わり方など家族から聞き取りを行うことで、本人の希望に沿った生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取り以外でお友達が面会に来られた時などに新しい情報を聞き取ることができる時もあった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活をみながら、変化にもすぐ気づける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自立支援や、リスクマネジメントなど考え福祉用具の方や、主治医、訪問看護にも相談しながら職員間での意見を聞き反映させるようにしている。	家族の意向は面談時や電話にて確認しケアプラン計画表に記載し反映させている。毎月のモニタリングは担当職員が行い、6カ月毎のカンファレンスは全体で行い見直しをすることで、現状に即した介護計画書になるよう努めている。サービス内容は、バイタル測定表とケアメモに記載してあり職員間で共有できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	結果の良し悪しで、ケア実践の内容を変えるなどカンファレンス時に検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況、家族の状況でこのホームだけでなくその時に合う、サービスへの移行など検討するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内で行われる包括支援センターの方々が行われるゲーム参加などにお連れしていた。医療機関、訪問看護などの支援も受け健康に過ごせるので毎日、小さなことでも出来る事を行っていただき力を発揮していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの関係を、断ち切らず希望のかかりつけ医に診ていただいている。家族も、ご本人の事をよく知っておられるので安心されている。どの医療関係も大変よくしていただいているので職員も安心できる。	入居前のかかりつけ医が受診できるよう支援している。かかりつけ医の協力もあり、現在は全入居者が往診である。訪問看護は週1回の利用で入居者の病状把握に努めている。体調不良時や治療方針の決定が必要な際は家族へ受診同行を依頼し、意向に沿った医療が受けられるよう支援している。内服変更や医師のコメントは申し送りしと申し送りノートにて共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきは、訪問看護の日に伝え助言をいただくようにしている。必要があれば、主治医への連絡もして下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、たびたび、状況の把握に努め退院は、できる時はできるだけ早い退院を進めるようにしているので医療関係とはいい関係性を保つようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化するときは本人、家族、医療との話をして終末期のあり方を進めるようにしている。職員に看護師がいないので、病院、訪問看護の協力が大変重要。	入居時に看取りの指針を説明し家族へ同意を得ている。状況に応じてその都度意向を確認し本人・家族が望む生活が送れるよう支援している。ホームとしては家族・主治医・病院看護師・訪問看護の協力が得られれば看取り対応可能である。ホームは職員の重度化に対する心構え、意識付け等の研修会開催を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、今いる職員は行ったが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	自主訓練を、行うようにしている。訓練は、順番で全員が行っている。火災防止のため、毎日、自主点検シートを使っている。	ホームは年に2回消防訓練を実施し、消防計画書に基づいて行動できるよう努めている。訓練時には毎回水消火器訓練を勤務者全員が行っており、職員は消火器の操作方法を周知している。職員は消防署で行われる煙の中での訓練や搬送訓練を経験しており訓練へも緊張感を持って取り組んでいる。	災害時に備え、備蓄品の種類や数量を検討し、食料品は3日分以上を目安に準備することが望ましい。自然災害訓練が実施できていない現状にある為、ホーム内での避難場所の確認や情報収集方法、備蓄品を食し実際に入居者が食せるか検討するなど今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議の時も、接遇について話をしたり事例を出し自分を振り返ってもらうようにして、法人でもいつも言われる人格尊重、尊厳を大切に話をしている。前回の、外部評価の後に便の確認時の声が大きくてよくないと話し、お互いに注意するようになっている。	職員は声のトーンや大きさ、方言を使用しても馴れ馴れしい口調にならないよう、入居者の誇りを損ねない言葉かけに努めている。行事の中でも本人の意向を確認しながら尊厳を大切に考え支援している。法人内の接遇委員会にホーム職員も出席し、ホーム会議にて委員会内容を報告し職員間で共有している。電話対応にも留意しており、職員同士で注意し合いながら改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の方は、話しやすい職員に希望は話されている。選択肢を出せることに関しては自分で決めていただく場面をつくっている。(食事のメニューや、着替えの服など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の、日常の流れは声をかけて行動しているが、すべての人が同じでなく年齢や、気分、体調でその人に合わせた生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を購入するときは、色やデザインなどご本人の好きなものを選んでいただく。職員に頼まれる時も希望を聞くようにしている。アクセサリーの好きな方は、家族に気に入っているのを持ってきてもらうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節もので、フキの皮をみんなでむいてもらうと皆さん無言で、黙々と行われている。テーブルを拭いてくれる人、食事前の消毒してくれる人など役割を持って行われ食事前には、順番で日付けや、「いただきます」の号令をかけていただいている。	食前に嚥下体操を実施し安全に食事が摂取できるよう努めている。調理担当職員が入居者の希望を聞きながらその日の献立を決めている為、リクエスト食が多く入居者の楽しみとなっている。食欲がない場合はお粥へ変更したり、服用中の内服に応じて食材を代替品にて提供するなど、おいしく食べてもらえるよう工夫し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時に水分補給を行い食事中も、できるだけお茶を飲んでいただくよう声かけを行っている。3時の水分補給は好みに合わせてたくさん飲んでいただくようにしている。食事は好き嫌いや食べる量を一人一人に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、声かけを行いその人の出来る事に応じた対応をしている。見守りだけの方や、介助の必要な人も出来る部分はご自分で行っていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。時間が空いているようなら、声かけ誘導するなどしている。夜間帯に排泄行為が分からなくなる方がいるが、その都度トイレに同行して声かけを行うようにしている。	排泄チェック表を確認しながらトイレへ誘導することで、失敗が少なく、トイレでの排泄に繋がっている。リハビリパンツや尿取りパットは個人の排泄間隔や尿量に応じて種類を検討している。トイレでの排泄に繋がったことで、起立する機会が増え、自分でズボンを上げることができるようになった入居者もいるなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、水分の補給、運動などお薬より先に取っていただき、それでも出ないときは薬を服用して頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に、午前中の中の入浴となっているが入浴の時はご本人の意思確認をとり、入浴して頂いている。無理に、入浴させることはない。	入浴は週2回実施しているが、毎日入浴準備はしている為、希望があった際はいつでも入浴できるよう支援している。本人の好むシャンプーや、季節に応じて菖蒲湯や入浴剤を準備し、入浴が楽しいものとなるよう努めている。同性介助を希望される方の意向に沿って羞恥心に配慮し支援している。女性入居者には化粧水や乳液を準備し喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせ居眠りをするなら昼間居室で休んでいただく。テレビを観てゆっくりして入床する方も食後、すぐに部屋に戻る方などそれぞれに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のケース記録に、薬の説明書をつけていつでも見られるようにしている。薬が、代わった時などは業務日誌、申し送るノートで情報を共有している。症状の変化も、日々の申し送りで行いドクターに伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに役割をあげ自信や生きがいを持っていただけるよう、お互いに協力しながら(ご利用者同士)楽しく生活を送れるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、難しい状況ではあるが3密を避けたドライブなどを行っている。初詣もドライブスルー方式で車の中からの参拝を行っていただいた。	1階のベランダからホームの庭に出ることができ、つつじやバラなど季節の花を眺めて、散歩や外気浴を楽しまれている。冠婚葬祭への参加時は、事前に職員が家族と連携を図り、準備などの支援を行っている。家族と外出される際は、排便状態・歩行状態・利用者状況・日によって状態が変わることなどを伝え、外出が楽しいものとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてではあるが、お小遣いを手元を持たれている方は職員に、欲しいものをお願いされ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に、面会の機会が減ったので電話で話す機会は大事にしています。暑中お見舞いや、年賀状も本人が書ける人には書いていただき、書けない人は、職員が代筆を行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々、あまり広くない環境なのでテレビの好きな人には、観やすい位置に席を置いたり、耳の遠い方は聞こえやすい位置に座っていただくなどしている、窓の光が差し込みまぶしいので、すだれをかけて季節感をだしている。	リビングの広い窓からは明るい日差しが入り、天井が高く開放的で、木造づくりの温かで家庭的な雰囲気がある。リビングには3人掛け、1人掛けのソファがあり、思いおもいの場所でゆっくり過ごせるよう配慮している。廊下には手すりが設置してあり、入居者の安全な歩行に繋げている。ホームのベランダからは自然豊かな緑と青空を臨むことができ、入居者の気分転換になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は、相性や身体能力などを考えその時に合わせ変えるように考慮している。一人が好きな人は、一人掛けのソファにかけていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持ち込むものは家族とも相談しながら持ってきていただいているが、居室内があまり狭くならないようお願いしている。転倒のリスクを考えベッドの位置を検討して配置するなどしている。	居室への持ち込み品として家族写真・仏壇・テレビ・趣味の製作品・時計・本・ハンガーラック・毛布があり居心地よく過ごせるよう配慮している。居室は中窓から明るい光が入り、整理整頓された温かで清潔な空間である。居室にはナースコール・スプリンクラー・防災カーテンが設置してあり、入居者の安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が、わかりづらくなった人もいたので名前を大きく表示するようにした。1階に部屋がある方で居室が分からなくなった方に、一緒にエレベーターで降りて部屋の方向を教えてもらう役割をしてもらうようお願いすると、最近は積極的に2人で行動されるようになった。		